

冬の利賀は、祭りがあつい！

利賀ゼミ便り

第5号

発行 2013/3/24



↑そば祭りに参加したボランティアスタッフたち。

そば祭り

今年のそば祭りは天気恵まれ、多くのお客様にご来場していただきました。そばを茹でる湯気に包まれた会場内は活気に溢れ、外の広場での丑曳き行事にはたくさん家族連れが楽しそうに綱をひいている姿が見られました。夜のスノーウェディングには利賀村出身の方の登場ということもあり、大いに盛り上がりました。恒例の雪上花火も大迫力。冬の花火は雪に光が反射し、夏の花火より幻想的な雰囲気になりました。

今回のそば祭り、私はボランティアスタッフの取りまとめをさせていただきました。都内の大学生や社会人を中心に60人という過去最高参加数で、無事故もなく終了しました。うまくいった点や改善点は次年度に引き継ぎます。これを機に初めて村に訪れたメンバーもあり、そのメンバーはまた来たいと言っていたいています。そば祭り以外にも利賀に行ける機会を設けて交流が生まれるといいですね。

村の方々には多大なご協力をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。(轟 晃聡)

利賀ゼミからのお願い

春祭りで獅子舞にお邪魔させて頂ける地区を募集しています。

連絡担当:利賀ゼミ 秋鹿佳恭
ayag.1sk10r@docomo.ne.jp
090-6804-9151

* Facebook でのご連絡も歓迎です。

利賀とわたし

轟 晃聡

私が利賀村と出会ったのは約二年前。大学のゼミで利賀ゼミの社会人の方から活動を聞いたのが初めてでした。

もともと国内旅行が好きな（47都道府県踏破！）私にとって、最初はいつもの観光旅行のつもりでした。しかし、それは自分が想像していた旅行とは違いました。振舞っていただいたそばのおいしさ、草刈りのしんどさ、村の人のおもてなしのあたたかさ：東京生まれ東京育ちの自分に足りなかった「ふるさと」を初めて感じた旅行でした。自分にとって利賀村は「第二の故郷」という言葉がぴったりにです。

その後はゼミの合宿で耕作放棄地を開墾したり、春祭りにおじゃましたり、どれもこれも都会では決して経験できない忘れ



られない思い出ができました。

大学では、初めてゼミ員で利賀に足を踏み入れたメンバーとして、今年度は牛島ゼミの利賀プロジェクトのマネージャー役を務めました。その経験は自己成長の場としても非常に有意義な時間を過ごしました。

同時に仕事に対する価値観や地域に対する姿勢を考え直しました。地元のお祭り（江戸三大祭りの地域在住です）にも参加するきっかけとなり、「地元」を再認識しました。四月から社会人になりますが、引き続き利賀村に足を運びたいと思います。これからもよろしくお願いいたします。（轟 晃聡）

どんど焼き

私の好きな利賀村のイベントはなんと言っても「どんど焼き」（左義長）です。私は2012年と2013年を通じて、村の5地区ものどんど焼きに参加させていただきました。

冬の利賀村を体験したい！と商工会の斉藤さんに相談したところ、斉藤さんから以下のようなメールが来ました。

—— どんど焼きで書き初めを燃やしたらよいと思います。

長い竹竿の先にさして火の上に掲げます。そして高く舞い上がれと祈ります。

私はこのメールを読んで、何てロマンチックなお祭り何だろう！とワクワクが止まりませんでした。さらに斉藤さんのはからいで、坂上の中西さん（中の



屋さん）に協力をいただき、中の屋さんの前の田んぼで私たちオリジナルのどんど焼きができることになりました。まずはツリー作りです。心棒を立て、枝を重ね、縄を巻き、さらに枝を重ね：ツリーは背丈よりも大きくなりました。私たちははしご

に登って組み立てました。そして、私たちのツリーが完成しました。

陽がどつぶり暮れて、いよいよ点火。すごい勢いで燃え盛ります。半紙を竿につけて

掲げると、あつというまに半紙は舞い上がり、空に消えて行きました。ダイナミックさと、繊細さが重なり合うところが、どんど焼きの美しさだと私は思います。いつか、東京でこんな素敵などんど焼きができればと思います。（加藤 貴之）